

全国中学生空手道選抜大会

三月二十七、二十八日に北海道北広島市で開催された全国中学生空手道選抜大会に一年の木場大輔と崎村奈央が出場。鹿児島県内では実績のある二人であるが、やはり全国の壁は厚く初戦を突破することは出来なかった。この無念の経験を生かし今後も県内ではなく常に全国を視野に入れハードトレーニングをこなしていってほしい。



木場大輔



崎村奈央

試合前一ヶ月に右の拳を傷めてしまい大会に出場するかどうか直前まで迷っていました。結果的に練習不足がたりたりプッシュに押しつぶされて初戦敗退となってしまいました。怪我も自己責任です。これから単に練習時間だけでなく日常のあらゆる時間が練習と考え自分に厳しくしていきたいです。

初めて北海道へ行きその広大な台地に感動しました。名

物のジンギスカン料理を食べ試合後は旭山動物園へも行き楽しい思い出が出来ました。これからも厳しい練習に耐え全国大会へ出場しいるようになります。(木場)

鹿児島を飛び立つとき、多くの方々から激励を受けました。それに答えようと必死に練習し臨んだ全国大会でしたが、今思うと少し焦りがあったかもしれない。まだまだ技術面、精神面共に不足していると感じました。この経験を生かし、次の試合で納得のいく戦いをしたいと思います。応援して下さい周囲の方々に心より感謝致します。ありがとうございます。

北海道は初めてでした。今後も一生懸命練習して全国大会出場を目指し全国あちこち飛び回りたいです。(崎村)

作文コンクール

二年生が活躍!

村川ありさが、「心の輪を広げる体験作文」で、鹿児島県最優秀賞に選ばれた。題名は『私とあいかちゃん』。施設で知り合った十三歳の少女あいかちゃんとの心温まる内容である。耳の不自由なあいかちゃんに触れ合う中で、「障害」を持つ方々も全く同じ人間、笑う、悲しむ、怒る、色々な感情を持つ。だからこそ互いに助け合って生きていかなければならない。何より、自分の価値をしつかり持ち人との出会いを大切にしたいと綴っている。



左から 鮫島・野間・村川

野間海里は全国中学生人権作文コンテスト鹿児島大会で奨励賞を受賞。熊本にいた小学校三年生のときの体験を綴ったもの。クラスでいじめにあっていたある男の子を迷いながらも勇気を出して助けようとする内容。鮫島里穂は「霧島地区作文コンクール」において、特選に輝いた。自分の特技を生かして全国大会に出場した思いを素直に表現している。大会に出場して感じたこと。特に

全国には自分よりはるかに力のある人が沢山いること知り、今後は更に精進しようという決意。自分の不甲斐なき、努力不足を思い知らされたという。こんなに大きな賞をいただけるとは全く思っていませんでした。それだけに先生から結果を聞いた時はとても嬉しうででした。大きな評価をいただき少し自分に自信が持てました。私は文章を書くことで心が素直になれるような気がします。これからも書くことを通して、自分を表現していこうと思っています。(村川)

五年前の小学校のときの忘れられない苦しい思い出を書きました。感じたままを素直に書いただけです。あのとときの

漢検・英検の取得者多数!

男の子がその後元気でやっているか作文を書きながらしきりに思うことでした。(野間)まさか賞をいただけるとは思ってもみませんでした。自分の純粋な思いが読んでくださる人々に伝わるように一生懸命書いたことが評価されてとても嬉しいです。(鮫島)



平成19年度は漢検2級を8人、英検2級を2人が獲得した。本校では開校以来一貫して国語と英会話の授業を通してこの二つの資格取得を目指してきたが昨年度は生徒たちが特に主体的に取り組んでくれた。クラス対抗の月末実施の「漢字プロテスト」では坂元佑衣が年間平均百点を達成した。

- 漢検2級取得者**
- 岩下麻依子 小路聡子
 - 國料由紀奈 坂元佑衣
 - 山下未来 木下真璃伽
- (以上3年)
- 英検2級取得者**
- 小野哲嗣 柿木優希
- (以上2年)
- 岩下麻依子 王麗晴
- (以上3年)

新生陸上部発足



スマイルで漢検・英検の学習に励むメンバー(手前2人が2年生)

今季注目のスプリンター
本校創立以来の伝統を誇る陸上部の新顧問に鹿児島大学を卒業したばかりの鮫島先生が着任。この春、再起動した。昨年度県大会にも出場した三年の前原史と二年の加藤将也に期待が集まる。ベストは前原が200メートル27秒5、加藤が100メートル12秒6。共に春休み中も順調にトレーニングをこなし5月の大会で自己記録の更新を狙う。



左端から 前原・加藤

第十八回 校内空手道大会 大成功

三月八日、全員参加の校内空手道大会(十三種目の競技)が執り行われました。組み手の部も然り、形もトーナメント方式を採用しているため、回を重ねるごとに白熱した質の高い形が演じられ、見学者をうならせてくれました。また早朝より多数のOBが審判に駆けつけてくれたり、恒例となった紅白戦にも参加してくれたりして、大会に華を添えてくれました。



鹿児島県 高等学校新人体育大会

平成十九年
十月十八日～十九日

男子団体組手 優勝
女子団体組手 第四位
男子個人組手 優勝

優勝 加寛 剛
第三位 宮内祐哉 (現三年)



第二十七回 全九州高等学校 空手道新人大会 兼 第二十七回 全国高等学校 空手道選抜大会予選

平成十九年
十一月二十四日～二十五日

福岡にて新人九州大会が開催された。出場は前回の七名のメンバーに日高(現三年)を加えた八名。各県四校が集まった。南九州ブロック(鹿児島・宮崎・大分・沖縄)の十六校中四校のみが選抜に行けるものである。日章学園(宮崎)嘉手納(沖縄)、鹿屋工業・鹿児島城西を倒し、南九州ブロックで優勝する。南と北のベスト四、計八校での決戦となった。長崎珪浦を倒したが、東福岡に敗れ、全九州三位を獲得した。



全国選抜大会

平成二十年
三月二十五日～二十七日



鹿児島第一高校は一回戦シードで、二回戦は東京代表の世田谷学園との対戦でした。試合結果は完敗でした。精神力・体力・技術面すべてにおいて相手方が優っていました。世田谷学園は評判どおりの圧倒的な強さで団体組手と団体形で優勝しました。生徒たちは全国レベルのチームと対戦できたことは生涯忘れない活力源になることと確信しました。

「短い時間でも集中して、中身のある練習をすれば、結果を少しでも出せる」ということが証明できた。また学業面でも少しづつではあるが、向上してきている。いかに中身のある、練習や学習をするかが大切だと思う。本年度も文武両道を目指し、頑張ってい

きたい。」(福岡源規先生 談)



第二十三回 対面式

平成二十年 四月七日



一年 伊地知尚美

桜も咲きほころび、春の日差しも暖かい今日、この良き日に、私たち新入生のこのような盛大な対面式を行っていただき、誠にありがとうございます。私たち百二十五名は昨日、新しい学校生活への期待と不安を抱きながら、この鹿児島第一高校に入学してきました。

いですが、先輩たちの勉強や部活動に対する素晴らしい態度を見習い、有意義な学校生活を送れるように努力していきたいです。

最後に高校生活でいろいろなと分からないことが多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、先輩たちのご指導のもと、学校行事や生徒会活動など、精一杯頑張っていくつもりですので、よろしく願います。

一年 宿泊研修

霧島自然ふれあいセンター
平成二十年 四月八～十日



一年 石田 優貴

僕は最初、合宿があると思っていて楽しそうだと思う反面、神戸から来たという事もあって、友達ができるかとか、勉強についていけるかなどという不安でいっぱいになりました。しかし、友達関係への不安は、一日目のバスの中で消し飛んでしまいました。バスの中ではいろいろな人が声を



掛けてくれ、大変心優しい友達がたくさんできました。センターでは一日目、英語・地歴公民・理科のガイダンスがありました。「授業は命」などの教えがあり、進学校ということもあり、しっかりと予習・復習をしておかなければ授業についていけなくなると思いました。中学生のままの気分ではいけないと強く感じました。二日目、英語・数学のガイダンス。文系や理系の貴重な話。三日目の国語のガイダンスも受け、しっかりと力を入れて行きたいと思えました。レクリエーションでも友達と友好を深めることができました。初心を忘れずに良い学校生活を送って行きたいと思えます。



第四十六回全国高等学校
生徒英作文コンテスト

全英連が文部科学省、日本英語検定協会、旺文社などの支援を得て高校生の英語による自己表現力を高めるため「全国高等学校英作文コンテスト」を実施しています。このコンテストは昭和三十七年に始まりました。今年、全国多数の応募者の中、厳正なる審査の結果、鹿児島第一高校の福田瑠(現三年)「My Favorite Phrase」が入選しました。高校生が内容ある意見、感想を英語で表現することは意義深いことです。書くことによる英語発表能力向上を目指しましょう。

さつまっ娘より
愛を込めて

「どうしても伝えたい想いがある 届けたい歌がある」

古川愛里亜(現三年)親子が「さつまっ娘」を結成しました。二〇〇六年十月のことです。その後、活動は続き、平成二十年度入学式でも、オリジナルの歌を披露しました。現在、自費でCDとブログ本をセットで出しています。どうぞ興味のある方はぜひ聴いてください。

いてください。



大韓民国 研修旅行

平成十九年 十一月
二年 上城充真(現三年)



今回、研修旅行ということで韓国に行けてとても良かったです。今まで、とても近い国であるのに、授業で習うことも少なく、昔の日本との関係についても大きな傷

のあった韓国について、改めて学ぶことができ、また実際に行って文化に触れることができました。韓国に行き、興味を持ったのが文化、町、人。水城高校との交流では彼らが授業で日本語か中国語を選択して学んでいることに驚きました。統一展望台見学も印象的でした。元はひとつの国の分断が強く感じました。北朝鮮・韓国の人々の家族の離散問題については言葉に尽くせません。四日間の研修は大変充実したものでした。



※ 写真提供 池田写真商会



